

新宿区教育委員会会議録

令和2年第6回臨時会

令和2年7月17日

新宿区教育委員会

令和2年第6回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和2年7月17日(金)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 4時00分

場 所 新宿区役所6階第2委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	酒 井 敏 男	教育長職務代理者	今 野 雅 裕
委 員	古 笛 恵 子	委 員	星 野 洋
委 員	山 下 浩 一 郎	委 員	羽 原 清 雅

説明のため出席した者の職氏名

次 長	村 上 道 明	教育調整課長	齊 藤 正 之
教育指導課長	荒 井 亮 宏	教科用図書 審議委員会委員	坂 元 竜 二
教科用図書 審議委員会委員	池 田 知	国語科調査委員会 委 員 長	松 澤 亮
技術・家庭科 調査委員会委員長	郡 吉 範	保健体育科 調査委員会委員長	佐 藤 浩

書記

教 育 調 整 課 査 平 明 生	教 育 調 整 課 係 国 分 克 行
-------------------	---------------------

議事日程

協 議

- 1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書採択について（教育指導課長）

◎ 開 会

○教育長 ただいまから、令和2年新宿区教育委員会第6回臨時会を開会いたします。

本日の会議には全員が出席しておりますので、定足数を満たしています。

本日の会議録署名者は、星野委員にお願いいたします。

○星野委員 はい、了解しました。

◎ 協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について

○教育長 本日は、議事はございません。

前回に引き続き、「協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

本日も、教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、令和3年度新宿区立中学校教科用図書審議委員会委員及び、各教科調査委員会委員長に出席していただいております。

本日の協議の進め方ですが、専門的に調査検討を行った各教科の調査委員会委員長から、種目ごとに、「指導要領の中での目標」、「教科の特性等」、「調査委員会における調査の内容」、「その他評価を決定する上での主な議論」などについて説明を受け、質疑を行います。

その後、教科用図書審議委員会委員から、種目ごとに教科用図書審議委員会における審議の内容等について説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

本日は、保健体育、国語、書写、技術・家庭（技術分野）、技術・家庭（家庭分野）について協議を行います。

なお、本日協議する種目の教科用図書については、8月7日の第8回定例会で採択を行います。

それでは、保健体育について、指導要領の中での目標や、評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○保健体育科調査委員会委員長 保健体育科調査委員長を務めました新宿西戸山中学校長、佐藤 浩でございます。どうぞよろしくお願いたします。

○教育長 佐藤委員長、よろしくお願いたします。

○保健体育科調査委員会委員長 初めに、保健体育科の目標について説明いたします。

学習指導要領では、体育や保健の見方、考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を、次のとおり育成することを目指すと示されました。

具体的には、3つの方向性にまとめられています。

1点目が、各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。2点目が、運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な理解に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。そして3点目が、生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

以上の3点でございます。

次に、ただいま説明した目標を達成するための教科の内容について説明させていただきます。

保健体育科は、体育分野と保健分野で構成されています。体育分野では、体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンス、体育理論の8領域です。保健分野では、健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境の4部項目となっております。

内容の構成に変化はありませんが、保健分野の心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容で、新たにストレスへの対処や心肺蘇生法などの技能に関する内容が示されました。

次に、実際の保健体育の授業において、教科書がどのように扱われているのかを説明させていただきます。

年間の授業時数は、各学年とも105時間であり、3学年を通して315時間です。体育分野及び保健分野に配当する授業時数は、それぞれ体育分野が267時間程度、保健分野は48時間程度となっております。

実際に教科書を使用して行う授業の内容は、体育分野の体育理論と保健分野の全4項目となっております。

次に、各社の教科書の特徴について説明します。

保健体育科調査委員会では、4社の教科書について調査を行いました。大前提としてどの

教科書も文部科学省の検定を通っているものであり、基本的には不適なものはございません。その上で、各社の特徴を把握し、新宿区に適したものについて調査いたしました。

調査の結果、各社、次のような共通点がありました。各単元が例えば「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」というように4段階で構成され、授業の流れが分かりやすく、生徒が見通しを持って学習に取り組むことができるつくりになっています。

また、現在の情報化に対応し、QRコードやデジタルコンテンツ等、情報機器を活用できるつくりになっています。

それでは、各社の特徴について、A評価の教科用図書から順に説明させていただきます。

A評価の教科用図書は1社、学研でございます。全体として視覚的に見やすくなるよう、配色や文字の大きさが適切であり、ユニバーサルデザインに配慮しています。

単元によって説明文とイラスト、図の量や大きさに変化をつけており、表や図を多く用いた補助教材がバランスよく適切に配置されています。

「性とどう向き合うのか」について詳細に書かれており、分かりやすく、生徒が課題意識を持ちやすくなっています。

また、章末にあるがんとその予防については、治療法とその選択、がんとの共生等で構成しており、深く学べる内容になっています。

次は、B評価の教科用図書です。2社で、東書と大日本です。

初めに、東書です。1単位時間の内容を見開き2ページで構成しており、学習内容の全体像が分かり、生徒が学習に取り組みやすくなっています。

また、今回初めて示された保健の技能の内容である応急手当、心肺蘇生法の実習資料が丁寧に記載されており、分かりやすくなっています。

さらにオリンピック・パラリンピックの価値や目的を、日本のトップアスリートの写真を用いて説明しており、親しみやすく、かつ分かりやすくなっています。

次に、大日本です。全体的に図やイラスト、写真が多く用いられるとともに、それらが見開き2ページの右側に整理されており、視覚的に見やすく、学習内容が理解しやすくなっています。

章のまとめ「学びを活かそう」の欄には、記入するスペースもあり、学習のまとめ、振り返りとしても活用できます。

最後に、C評価の教科用図書です。C評価は1社、大修館です。章のまとめにおいて、観点別に問題が提示されており、生徒は学習したことを振り返ることや、考えを深めることが

できます。また、教師は評価材料として蓄積することができます。

さらに全体的に情報量が多く、充実しており、カラフルで色彩も豊かです。

調査委員会としては、いずれの教科書もそれぞれの特徴や工夫した点などのよさを感じることができました。

その中で、教科を教える立場として、授業でどのように使用し、定着・発展させていくのかと、具体的にイメージしながら意見交換をし、検討を進めてまいりました。

評価委員会で検討した結果は、これまでの説明のとおり、A評価が学研、B評価が東書と大日本、そしてC評価が大修館となりました。

こうしたことから、総合評価として、バランスがよく、生徒にとって使いやすい教科書という観点で、学研を推薦させていただきます。

以上、保健体育科教科用図書の調査結果について報告させていただきました。

○**教育長** 説明が終わりました。

御質問等あれば、お願いいたします。

○**羽原委員** ありがとうございます。教科書で取上げるタイミングではなかった新型コロナウイルス感染症の問題は、感染症のところでは当然ながら触れていませんが、今後4年間使う教科書として、これはどういう扱いになりますか。子どもたちが非常に身近に感じられるテーマであって、大事なことではあるけれども、どうでしょうか。

○**保健体育科調査委員会委員長** 実際、この教科書にはタイミング的にまだ扱われていませんけれども、現状としては日々、子どもたちは新型コロナウイルス感染症と向き合っていますので、今後の知識を教員がしっかりと身に付けた上で、それぞれの場面場面で必要に応じて指導していく必要があると思っています。今、日常的に新型コロナウイルス感染症に対してどう対応するのかというところも、生徒に指導していますので、そういった繰り返しも、教科につながっていくと考えております。

以上です。

○**羽原委員** この新型コロナウイルス感染症以外の問題にも関わりますが、4年間使う前提で言うと、その間にいろいろ変化がありますよね。あるいは、新しい事態が生まれるとか。そのようなときは、学校対応であって、採択された教科書からは何か訂正版なり補強用の教材というものは、何かそういう段取りはあるのでしょうか。

○**保健体育科調査委員会委員長** 教科書は4年に1回の採択ですので、それを教科書会社がどういうふうを受け止め、取り扱うのかは分かりませんが、その時々には様々な問題が発

生すると思いますので、そういった問題に関しては、教育委員会で整理して、学校に対して必要な指導、助言をしていただければと思いますし、学校としましても、教育委員会と連携しながら、適時的確な指導を生徒にしていかなければならないと考えております。

○羽原委員 今までも、そういう時宜を得ているかどうかという問題は、いろいろあったかと思うんですが、これまではどのような対応をされてきたんですか。

○教育指導課長 基本的に、新宿区の教育委員会独自でつくるものもありますし、それから東京都や国からの資料など、そういったものを私どものほうで見て、それに必要な情報を付け加えて学校にお渡しして、それを使っていただくであるとか、そういったことが基本的な流れでございます。

その上で、羽原委員御指摘のとおり、今現在起こっている問題に対しては、教科書そのものが全面的に差し替わるということはないでしょうから、感染症というくくりで言えば、今まで多くの感染症がございますので、そういったものの全容はまず一つとして、新型コロナウイルス感染症に対してはこうだというような指導をするための資料等については、私どもでも準備して、いろいろなものをお渡しできると考えております。

○羽原委員 分かりました。

○教育長 よろしいですか。ほかに御質問等があればお願いいたします。

よろしいでしょうか。

○羽原委員 もう1点。LGBTの問題について、去年小学校の教科書採択のときにいろいろと論議があって、載っている教科書を重視する結果になったんです。それはそれでいいんですが、中学生、つまりLGBTという問題についてより理解なり判断ができるようになる頃には、公民や保健体育といったあたりの教科書で触れてくるのかなと思ったんですが、どちらを見ても割に、あまり深入りしないというか、小学生の教科書よりもちょっと引いているかなという印象があるんです。その辺は何か特別な判断がおりますか。

○保健体育科調査委員会委員長 LGBTに関しては、学習指導要領の中でもまだ取り上げられておりません。したがって、各教科書で取り上げてはいるんですけども、トピックスとか、前面に押し出しているものではないと認識しています。ただし、大変重要なことですので、そういったトピックスといたしましうか、次の学習に発展させるような内容として取り上げている教科書はあります。

○羽原委員 概して表現がセーブされている感じがあるんですね。分かりました。

○教育長 ほかに何か御質問等ありますでしょうか。

では、私から1点質問があります。新しいメンタルを取り扱っている箇所について、A評価の教科書とB評価の教科書の違いみたいなところを、ちょっと御説明いただければありがたいです。

○保健体育科調査委員会委員長 今回、メンタルの部分でストレスをどう解消していくかというところも、保健体育の中で初めて技能として取り上げられていますので、どの会社もきちんと取り上げることは取り上げています。ただ、その内容の取り上げ方や細かな説明についてはそれぞれありますが、各社ともいろいろと取り上げているような状況です。

○教育長 単なる知識ではなくて技能として、つまり、そのために何をするかという取り上げ方が、今回の教科書の新しいところということですね。

○保健体育科調査委員会委員長 そうでございます。

○教育長 分かりました。

ほかにはよろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 他に御意見、御質問がなければ、次に国語について、評価を決定する上での主な議論について御説明ください。

○国語科調査委員会委員長 国語科調査委員長を担当しました、牛込第二中学校校長の松澤亮です。よろしくお願いいたします。

○教育長 よろしくお祈りします。

○国語科調査委員会委員長 今回の学習指導要領の改訂により、これまで5観点だった学習状況の評価が、他教科と同じく、知識及び技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点到整理されました。

国語においてこれまでと異なるのは、それぞれ1つの観点として独立していた「話す・聞く」「書く」「読む」の3観点が、まとめて思考・判断・表現の観点に入ったことです。

思考・判断・表現の観点は、新学習指導要領の中では「できることをどう使うか」と定義されていますので、様々な知識及び技能を学んだ結果、それらを活用する学習活動として、「話す・聞く」「書く」「読む」が位置づけられるようになったということです。

例を挙げます。従来、情報の扱い方、つまり情報には意見と事実があつて、それらを分けなければいけないことや、具体的な情報と抽象的な情報を区別することなどは、単独の観点である「読む」のところに入っていました。

ところが、新学習指導要領では、情報の扱いは、知識及び技能の観点到位置づけられて

います。これは中央教育審議会などで文章で表された情報を的確に理解することが、喫緊の課題と指摘されたことが影響していると考えられます。

新井紀子先生の「A I v s . 教科書が読めない子どもたち」で、社会的関心事となった子どもの文章読解能力が危機的な状況になっていることへの世論も影響したかもしれません。したがって、知識及び技能の観点では、文法や漢字や語彙、情報の扱い方をしっかり学習し、その上で様々な文章を読むというように変わったこととなります。

例えば、これまでは初心者がいきなりゴルフクラブを持ってコースに立たされていたのが、しっかりと練習場などでレッスンしてからコースに立つようになったというイメージです。つまり、学習者としての生徒から見た場合、どれが身につけるべきスキルで、そのスキルを生かすことのできる教材はどれかということが明確に分かり、それらがバランスよく配置されている教科書がいいというのが調査委員会の意見です。

さて、本調査委員会では、合計4社の教科用図書について、今申し上げた基本的な考えに基づき、調査を行いました。A評価の教科用図書から順にお伝えします。

光村図書です。定番の文学的文章や「話すこと・聞くこと」、「話し合うこと」の単元、そして知識及び技能の一つ、情報の扱い方などがバランスよく配置されていることが特徴的です。和歌はどの教科書でも扱っていますが、光村図書では口語訳が丸ごと横に示されております。新学習指導要領では、古典の世界に親しむことが目標と記されており、分かりやすくすることで、古典嫌いをなくすための工夫をしたのではないかと考えています。

巻末の学習を広げるコーナーには、森鷗外の「高瀬舟」を掲載するなど、伝統的に文学的文章にこだわりがあるところも特徴です。新宿区の子どもたちに対しては、子ども読書活動推進計画にあるように、主体的に読書をする中学生を育成するために、また、読書を通じて思考力を鍛えるために、これぐらいの見応えが必要であると考え、A評価をつけました。

続いて、B評価の教科用図書についてです。

まずは、東京書籍。「言葉の力」「学びの扉」など学習の系統立てが分かりやすく、興味関心をもって学べるよう工夫されています。

知識及び理解の部分は、基礎編として本の最後のほうにまとめられていますが、「スキル学習をして教材に入るという順であってほしかった」という意見があったため、B評価としました。

続いて、三省堂です。こちらも生徒の意欲を高める教材が多く取り入れられ、色刷りや挿絵なども美しく、生徒の実情に合っていると意見が多く挙げられました。新宿区にゆかりの

ある夏目漱石を掲載している点も高評価でした。

「読み方を学ぼう」の学習が分かりやすく、「生徒にとって使いやすい」という意見もありましたが、「中学校3年生程度ですと、もう少し充実させてほしかった」という意見もあり、B評価としました。

最後に、教育出版です。教材の冒頭にある「学びナビ」というのが知識及び理解の観点と対応しており、まずそこでスキルを身につけて教材に入るという仕組みになっています。新しい教材やユニバーサルデザイン、持続可能な活動への言及など、バランスもよく意欲的な教科書と感じられました。

最終的にB評価としたのは、大きなメリットでもある「学びナビ」が意欲的過ぎて、もう少しシンプルでもいいのではという意見があったためです。

なお、C評価はありませんでした。

全体を通しての部分ですが、今回の教科用図書の大きな変更点であるQRコードやデジタルコンテンツについて触れます。

QRコードには、特徴的な違いがあります。例えば漢文教材はどの教科書にも入っていて、教育現場では繰り返し音読する学習を行いますが、光村図書だけが漢文教材のすぐ横にQRコードを配置しており、アクセスすると、すぐに音読が聞けるようになっています。自宅などで、生徒がスマートフォンなどを使用して、主体的に学習に取り組めるようになっていると考えられます。

また、B評価をつけた教育出版については、デジタルコンテンツが非常に要領よくまとめであり、効果的に使うことによって、新しい時代の教科書になり得ると感じました。

それぞれ工夫された教科用図書でしたが、国語科調査委員会としては、新学習指導要領で求めている資質能力について、生徒から見て学びやすいという部分や、読書を通じて生徒の思考を鍛えるためには、定番も含めて読み応えのある教材が必要であるという意見を総合的に評価し、光村図書を推薦します。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

いかがでしょうか。

では、私から。光村の3年ですけれども、272ページに古典近代文学の明察という箇所があります。このうち、277ページに三島由紀夫の「潮騒」が出ているんですけれども、三島

由紀夫は近代なんですか。

○国語科調査委員会委員長 近代文学としてはちょっと新しい感じもしますが、もう時代も流れてきたので、ここに入ってきたものと推察します。

○教育長 282、283ページを見ると、近代、現代で分かれています。三島由紀夫の作品はどこに入っているかという、現代に入っているんですよ。ここはどう教えるんでしょうか。

○国語科調査委員会委員長 申し訳ありません。文学史関係のところは、中学校の学習指導要領ではほぼ触れていません。知識としてこういった表を示す程度で、三島由紀夫が現代か近代かといった教え方はしていないところでございます。どういった意図でこのように載っているのかについては、私も確かめたわけではありませんので、分かりません。

○教育長 分かりました。どこの教科書が採択されるかは分かりませんが、生徒から質問されたら答えないわけにはいかないんですよ、教師としては。同じ教科書で、現代に載っている作家が別のところでは近代として載っているのは、どうしてですかと聞かれたらば、知らないよというわけにはいかないと思いますので、よく研究をしておいていただければと思います。

ほかに何か御質問等がございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 他に御質問がなければ、次に書写について、評価を決定する上での主な議論について御説明ください。

○国語科調査委員会委員長 続いて、書写の教科書についても述べさせていただきます。

書写に関しては、我が国の言語文化に関する事項として、書写の能力を学習や生活に役立てることが重要視されています。観点としては、知識及び技能を理解して、効果的に書くことができる力を育成することが求められています。

さて、本調査委員会では、合計4社の教科用図書について調査を行いました。A評価の教科用図書から順にお伝えします。

光村図書です。内容、構成ともに非常にバランスの取れた教科書と考えられます。また、書き込むページがまとめられている「書写ブック」が冒頭に合体していることで、反復練習への移行がスムーズであり、「考える」「確かめる」「生かす」という学習の流れが、生徒の主体的な学びに合致していると考えられます。

行書見本の人名漢字が豊富であったり、読み物等も充実したりしていることから、生徒が

主体的に学ぶのみならず、資料集として活用しやすい教材として最適であると考え、A評価をつけました。

B評価の教科用図書について述べます。

まずは、東京書籍です。「何々しよう」という形で目標が明確に示されており、生徒が主体的に見通しを持って学習できるようになっています。

身近な具体例や「生活に広げよう」という教材が適切に配置され、発展、応用もしやすいです。バランスとして、やや実践的な内容に偏っているのではないかという意見があったため、B評価としました。

続いて、三省堂です。基礎と本編と資料をバランスよく配置し、学んだことが生活に生かせるよう工夫されています。特に、基礎は筆の持ち方等の基礎から確かめることができるようになっています。生徒の使いやすさと指導のしやすさを考えると、書き込むページがまとまっているほうがよいという意見もあり、B評価としました。

最後に、教育出版です。発展教材や古典や芸術としての書写の鑑賞などに力が入っており、非常に意欲的な教科書だと考えられます。学年ごとに色分けされ、生徒がそれぞれに目標を持って学習に取り組むことができるようになっています。範型が教科書と異なっていること、書き込むページの紙質が生徒によっては書きにくいのではとの意見から、B評価としました。

なお、C評価はありませんでした。

全体を通しての部分ですが、今回の教科用図書の大きな変更点であるQRコードやデジタルコンテンツに触れます。どの教科書にも、姿勢や筆の持ち方などの「はじめに」のページがあります。古い教科書ですと写真だけですが、動画の説明力にはかないません。動画と直接リンクしているのは、光村図書と三省堂のみです。光村図書は、姿勢、用具、持ち方など、それぞれにQRコードがついており、ダイレクトにそれぞれの動画とリンクしています。

三省堂は、1つのコードで動画をまとめたページにつながるという違いがあります。1つの活動に1つの動画を対応させている光村図書のものが、調査委員会では高評価でした。

B評価の教育出版社については、国語の教科書同様、デジタルコンテンツをまとめてあり、自宅でも学ぶことのできる意欲的な新しい時代の教科書であると感じました。

書写の教科用図書としては、どの教科書も新しい時代に合わせて優れた出来となっており、明らかな差はほぼありませんでした。しかし、国語科調査委員会としては、先ほど述べたような要望や意見を踏まえ、総合的に評価・判断した結果、光村図書を推薦します。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。説明が終わりました。

御意見、御質問があれば、お願いいたします。

いかがでしょうか。

○星野委員 大変細かいことで申し訳ないんですけども、巻末のほうに「手紙の書き方」というところがあります。一応、3社ともあるんですが、光村だけ切手の位置が違うんですね。これはどうでもいいものなんでしょうか。

○教育長 いかがでしょうか。お答えはありますか。

○国語科調査委員会委員長 特に、調査委員会として、意見やお答え等はございません。

○教育長 つまり、郵便番号のところから書くのはどうなのかということですよ。

○星野委員 はい、結構です。

○教育長 よろしいでしょうか。勉強になりました。

ほかに何か御質問等ありますでしょうか。

教科書採択と関係のない質問ですみませんが、行書はどのぐらいの時間をかけて教えるのですか。

○国語科調査委員会委員長 参考までにですが、普通に書写を進めていきますと、行書に入るのは1年生の最後ぐらいのところ。3学期に入って書き初めをするんですが、その書き初めが大抵の場合は楷書と行書とを選べるようになっているので、その前に行書に触れるというようなイメージです。2年生からは、大抵は行書からスタートするような感じでした。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに何か御質問等ございませんでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 なければ、次に技術・家庭（技術分野）について、評価を決定する上での主な議論について御説明ください。

○技術・家庭科調査委員会委員長 技術・家庭科調査委員長、西新宿中学校長の郡吉範です。よろしくお願いいたします。

○教育長 お願いします。

○技術・家庭科調査委員会委員長 私から、技術・家庭科教科図書の調査について報告いたします。

まず初めに、技術・家庭科共通の教科の目標についてでございます。

新学習指導要領では、生活の営みに係る見方、考え方や、技術の見方・考え方を働かせ、

生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指すとされています。

そして、これを受け、3つの各目標にまとめられています。

(1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

(2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。

(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うというものです。

現行の学習指導要領では、よりよい社会を築くために技術を適切に評価し、活用できる能力と実践的な態度育成を重視する、というのが技術分野の目標ですけれども、実際には技術を評価する力、設計、計画の力に課題があるとされています。

それらを受け、技術分野に関しては、基本方針として、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができるよう、技術を評価、適切に選択、管理運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりすることによって、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成、これをより一層重視するとされています。

分野の具体的な目標として、技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指すとされています。

それでは、調査結果でございます。技術分野では、3社の教科用図書について調査を行いました。

初めに、A評価の開隆堂からお伝えします。

課題解決をねらいとする教材が多数掲載されており、それらの教科書の活用の仕方の手引きがあり、教師も生徒も使いやすいものとなっています。

科学的な根拠に基づく端的な文章表現で、分かりやすい文章表現がされています。

内容構成は、技術の見方・考え方を踏まえたものとなっており、全体的に主体的な学習につながる導入の工夫も見られます。

そして、技術の見方・考え方の解説が丁寧であり、実生活との結びつきが分かりやすく示されています。

次に、B評価の東京書籍についてです。

問題解決型の学習につなげるための課題設定が各分野にされており、生徒に習得させる技術の見方・考え方につながる内容構成となっています。

写真やイラストも多数使用されていて分かりやすく、またQRコードを読み取ることで動画が視聴でき、学習内容が深めやすくなっております。

さらに、分野ごとに学習に振り返る項があり、達成度や習熟度を確認しやすいようになっています。

次に、同じくB評価の教育図書です。

工具の使い方等の基本的な技能に集約したハンドブックが別冊に分かれており、生徒が作業に取り組む際に必要な情報が端的にまとめられております。また、作品例等が豊富に掲載されており、体験的・実践的な学習に適しております。

総合的に、技術分野では、どの教科書も視覚的に理解を進める工夫が進められていますが、課題解決的な学習が進めやすいという観点により優れている評価から、開隆堂が最も高いA評価となり、調査委員会として推薦をいたします。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、御質問等あれば、お願いいたします。

いかがでしょうか。

では1点、私から。随分幅が広がって、木工から情報技術までということですがけれども、情報技術のところで、各教科書を見比べて、特段、この教科書のこの部分は非常に工夫されている、というような点があれば、御紹介いただけますでしょうか。

○技術・家庭科調査委員会委員長 今回の学習指導要領では、情報セキュリティに関わる基礎的な技術の仕組み、それから社会におけるサイバーセキュリティの重要性のことが規定されています。そこを3社見比べてみると、開隆堂が情報セキュリティ・モラルについて非常に分かりやすい表示をされているという評価を、委員会ではしていました。

○教育長 実際に学校現場で使いやすいということですね。

○技術・家庭科調査委員会委員長 はい。

○山下委員 情報という部分に関して、実際の授業でこの情報の扱いというか、本当にプログラムを組んで動くところまでやるのか、知識としてとどめるのかというのは、どういう感じなんですか。

○技術・家庭科調査委員会委員長 実際にプログラミング教育が小学校に入ってきて、小

学校には技術科という教科はないんですけれども、中学校に入ると技術科という教科になりますので、教材等を購入して、実際にプログラムを動かしてみようということはやっておりません。

○山下委員 となると、この教科書を使ってプログラミングをするのではなく、何か補助教材が別にあって、それを使ってプログラミングをするということですか。

○技術・家庭科調査委員会委員長 いえ、基本的には教科書を使いながらになります。

○山下委員 分かりました。

○教育長 ほかに御意見、御質問がなければ、次に技術・家庭（家庭分野）について、評価を決定する上での主な議論について御説明をお願いいたします。

○技術・家庭科調査委員会委員長 まず、技術・家庭科の共通の教科目標に関しては、同じでございます。家庭分野の目標に関しては、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指しております。

この生活の営みに係る見方・考え方として、新しい学習指導要領では、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を協力、協働、健康、快適、安全、生活文化の継承、創造、持続可能な社会の構築の視点で捉え、よりよい生活を営むことを工夫することとされております。

実際の家庭分野の教科書の評価についてお話をいたします。

まず、A評価の教育図書です。対話を通して、学習内容と実生活を結びつけ、体験的に学ぶことができるように工夫されております。

また、全体にインパクトのある資料や美しい写真が豊富で、生徒の興味や関心を引くものなど視覚に訴える資料が多く、学習内容を魅力的に紹介されています。

必要な情報が分かりやすくまとめられていて、資料としての完成度も高いものとなっております。

どの領域も日本の文化が丁寧に紹介されています。

対話や体験から学び、理解を深める内容が豊富で、また、「考えてみよう」の内容が生徒の実態に合っていて、学習を深めるのに役立つものとなっております。

次に、B評価の東京書籍についてです。

情報量が豊富で、多くの情報が丁寧に解りやすく分かりやすく掲載されています。紙面の構成も見やすく工夫されています。

しっかりと読み込んでいくことで確かな知識を身につけることができると考えられます。

各編のトップに、小学校での学習内容とこれからの学習の流れが端的に示されており、学習の全体像がイメージできやすくなっております。

各ページの下にある「せいかつのメモ」は、身近な情報から専門的な知識まで紹介し工夫されております。

最後に、C評価の開隆堂についてです。

実習例が多く紹介され、体験学習と結びつきやすいものとなっております。「振り返り」「生活に活かそう」などの欄が充実しており、学びが主体的になるように工夫されております。

総合的に、家庭分野でも、どの教科書も技術分野と同様、視覚的に理解を進める工夫が進められていますが、対話を通して学習内容と実生活を結びつけ、体験的に学ぶ工夫がより優れている評価から、教育図書が最も高いA評価となりました。調査委員会として推薦をいたします。

以上です。

○**教育長** ありがとうございました。

それでは、御質問等あれば、お願いいたします。

○**羽原委員** 例えば、教育図書だとABCのコラムになっているわけですが、これを学校現場でどういうふうに配分するというか、1年間でABCを少しずつやるのか、それとも1年生は家族・家庭とか、どういう配分で3年間の授業を進めていかれるのですか。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 基本的には、ABCの順番に、1、2、3学年の授業内容として進めていくようになっております。

○**羽原委員** そうすると、例えば1年生だと、家族・家庭だけを1年間やると。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** もともと授業時数も非常に少ないものですので、まず家族のあり方というところから始まっていきます。

○**羽原委員** それぞれリンクしているからいいけれども、ただ、1年生から3年生までの成長のプロセスを考えると、例えば衣食住の問題だと、1年、2年、3年で少しずつでも通じて学習したほうがいいのかなど。料理は、例えば衣・食・住だから2年生という、そういう分け方で果たしてよいのかなど。分け方は分かりやすいけれども、子どもたちの実生活からすると、そういうことなのかなど、ちょっと疑問に思っただけです。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 技能教科書ですので、本来であれば、少しでも満遍なくとい

う考え方もあるかとは思いますが。全体的な教科時数等々、または教える内容等の配列と、他教科との関連性もありまして、現状ではこういう配列としております。

○**教育長** ほかに何か御質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、私から1点。消費者教育、あるいはそれに類するような観点で何か、教科書のここが特色的であるというようなことがあれば、教えていただけますでしょうか。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 今回、計画的に金銭管理、消費者被害への対応に関する内容が新設されております。その観点からも、実際に教育図書の商品が分かりやすく、消費生活と環境に非常に配慮した、ライフスタイルの確立の基礎となるような内容であるという評価で、この教育図書を推したいという意見がありました。

○**教育長** ありがとうございます。

ほかに御質問等がなければ、種目ごとの「指導要領の中での目標」、「教科の特性等」、また「調査委員会における調査の内容」、「その他評価を決定する上での主な議論」などについての質疑を終了いたします。

続いて、教科用図書審議委員会の調査結果について、教科用図書審議委員会委員から、種目ごとの説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

それでは、保健体育について、教科用図書審議委員会でどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○**池田教科用図書審議委員会委員** 保健体育についての審議検討内容の説明を行います。

保健体育。最も学校調査の結果でA評価が多かったのは、学研で、10校中5校がA評価でございました。調査委員会の調査結果では、学研が総合評価でA評価でございました。教科用図書審議委員会では、学研をA評価といたしました。

その理由、意見等として、具体的な場面設定や生徒が自身の生活に結びつけて思考できる発問や質問が有効であること。また、LGBT、がん教育などの記載について、適切であるという評価が挙がりました。

他社に関する意見として、例えば東書。学習意欲を高め、章末資料の「性の多様性」という部分について、生徒に課題意識を持たせることができる。

大日本。ページの左右を比較しながら学びを深めていける。また、がん教育については、がんの治療法や、がんについて家族や身近な人に伝える学習が充実しているなどがよい点として挙げられました。

最終的に、教科用図書審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、ルビの適切な使用、がん教育についての扱い方、内容等の充実等も含め、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった学研を教科用図書審議委員会としては推薦いたします。

保健体育科は以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問等あれば、お願いいたします。

○星野委員 がん教育についてお伺いしたいんですけども、タイトルが「がんの予防」で、なおかつ教えるのが中学生ということで、医師としては、各社の記載の中にHPVワクチン、子宮頸がん予防ワクチンについてほとんど記載されていないというのが、すごく違和感があるんですね。

ちょっと専門的なことなので、簡単に説明しますと、子宮頸がんワクチンは大体20歳から40歳代の女性の死因や不妊の原因として大変重要で、ヒトパピローマウイルス、これがHPVなんですけれども、これへの感染が原因とされております。HPVワクチンはがんを予防できる唯一のワクチンで、小学校6年生から高校1年の女子を対象に定期接種が行われています。

多くの国で接種が進められ、男子への接種も進めているオーストラリアでは、2025年にも撲滅されるのではないかということも言われております。ただ、現在、原因不明の副反応によって、定期接種でありながら、2013年から積極的勧奨が中止されています。

ただ、最近はその対応方法が定着しつつありますし、中止から7年経ちまして、実際に子宮頸がん患者の発症が懸念されるということから、ここ1、2年の間に積極的勧奨が再開されるという情報もあります。

これにつきまして、なぜ中学校の一番大切な時期の教科書でありながら、その子宮頸がんワクチンの記載がほとんどないのかということについて、ぜひ教えていただきたいんですけども、調査委員会からも審議委員会からも、その点の報告がなかったので、ちょっとお聞きしたいんですけども。

○坂元教科用図書審議委員会委員 がん教育については、今回新しく新学習指導要領の中で位置づけられているものでございます。中学校の保健体育の分野の中では、がんの予防ということで、がんの要因については、特に不適切な生活習慣によるものがあるということから発展して、がんの予防には生活習慣面での予防、適切な生活習慣を身につけることが有効であ

ることが理解できるようになっております。今、委員のご発言にあったワクチンやウイルスのことについては、触れてはいないところです。

ただ、がん教育については、中学校と高等学校で新しく位置づけられています。高等学校では生活習慣のみならず、ウイルスの感染なども原因であることに触れています。がん教育については、幾つかの教科書会社で、少し発展的な内容で触れているところがある現状です。

以上でございます。

○**星野委員** 指導要領上の問題ということなんですけれども、中には胃がんについてピロリ菌の抗生物質が効くということが記載されているものがありますが、それは大人の話であって、なぜ一番大切な時期の中学生に対してほとんど触れていないのか、という印象です。正直、大日本に関しましては、書いた方を存じているので、この程度しか記載できないのかなという、ちょっと残念な気もするんですけれども、正直、どこかから変な力でも加わっているのかなと思われるぐらい記載が不十分だったので、お聞きしました。

それで、そういう理由で一番大切な中学校の時期に予防接種の機会を失うことは、下手をすればその生徒の将来の命に関わることになりますので、できれば外部講師による授業の中で触れていただくとか、HPVワクチンについて触れる機会をつくっていただきたいと思えます。

以上です。

○**教育長** ただ今の御質問については、いかがでしょうか。

○**坂元教科用図書審議委員会委員** このがんの予防の単元では、なかなか触れることは難しいかとは思いますが、性に関する教育等の充実という部分で、外部講師や医師等呼んで、触れていくことは可能だと思います。その際には、性に関する教育等に発展的に取り組んでいる中学校については、こちらから助言はしていきたいと思っております。

以上です。

○**星野委員** よろしくをお願いします。

○**教育長** ほかに何か御質問等ありますでしょうか。

いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** 他に御質問がなければ、採択にふさわしい教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

それでは、まず保健体育についてお伺いします。

まず、専門的な御立場から星野委員、よろしくお願ひします。

○星野委員 教育という立場と、医師という立場、2つの立場から見なければならないのでなかなか難しいんですけども、調査委員会の評価から、東京書籍、学研、大日本の3社について検討させていただきました。

全体としては、大変見やすく、図表も分かりやすく配置されていたと思います。

章の終わりにあるまとめや問題に関しては、東書と学研が大変見やすく、大日本に関しては、ちょっと使いにくいかなという印象でした。

体育に関しては、3社ともやるもの、見るもの、助けるもの、また、健常者、障害者、国際交流などスポーツのよさをよく表現したものだと思います。

保健に関しましては、従来からある分野については、いいところも悪いところも、もちろんありましたが、不適当な記載はなかったと思います。

個々の事項では、アレルギーに触れているのが東京書籍と学研。生活習慣病に関して、小児から進行するという記載があったのが東書と学研。インターネット依存に関する記載があったのが東書と学研でした。

感染症に関しまして、今、新型コロナウイルス感染症の流行時ですけれども、飛沫感染と空気感染をきちんと区別していたのが東書。結核に関しましては、これは新宿区は大変有病率が高い疾患なんですけれども、各社で記載していますけれども、一番詳しくかったのは学研。

性感染症につきましては、尖圭コンジローマ、これはHPVウイルスが原因となるんですけれども、この記載があったものが学研と大日本。また、梅毒に関しましては、これも新宿区で大変報告が多いもので、これも各社に記載はありましたけれども、一番詳しくかったのは大日本でした。

また、心肺蘇生が新しく加わったということですが、動画も含めて一番よいものが載っていたと思います。

心の発達に関しましては、性の問題、ストレスの問題、思春期にある生徒に対して、多面的に対応できるような記載があったと思いました。

最近話題のLGBTに関しても、種々のアプローチがされていると思います。

先ほど少し言わせてもらったがん教育ですけれども、私は外部講師の講習会というものを受けておまして、そのときに、今回がん教育の基本になることが、日本人の2人に1人が一生のうちにはがんになるということと、ありふれた病気であるということ。また、たばこ、

お酒の制限、ワクチン、抗生物質などで予防できるものもあるということ。また、早期発見により、長期生存、治癒も期待できるものということを考えて、併せて本人や家族のための検診の大切さを教えること。また、通院治療中や、がんを乗り越えた、いわゆるがんサバイバーという方々が増えてきていますので、そういう方の生活を理解するというのも教育の意義に挙げられる、ということです。

それらを評価のポイントとして考えますと、子宮頸がんのHPVワクチンに関しましては、先ほど質問させていただいたとおりなので、あまり深く追及してもしょうがないかなとは思いましたが、医師として必要ながん教育の最低限の記載があったのは、大日本図書と判断いたしました。HPVワクチンの直接的な記載はありませんでしたけれども、ワクチンという記載があるのは、これはHPVワクチンにほかなりませんので、ちゃんと書いていただけたかなと思いました。

ちょっと残念なのが、東京書籍に関しましては、2人に1人ががんになるという、一般的な病気になりつつあるという記載がなかったということと、ほかのがんについては記載があったけれども、子宮頸がんに関しては記載さえなかったこと。また、子宮がんという記載はあったけれども、子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんとがある中で、支給頸がんの記載自体がなかったということがとても残念だと思いました。

こういう点で、がん教育に関しては大日本がいいなと思ったんですけども、全体を見まして、章末のまとめが使いにくいなと思いましたので、全体評価としては、僕は学研がいいと評価させていただきました。

○教育長 ありがとうございます。

続いて古笛委員、よろしいでしょうか。

○古笛委員 私も、結論としては、学研になりました。学校調査、調査委員会、それから教科用図書審議委員会、いずれもA評価、一番評価がよかったというところで、それを踏まえて読ませていただいたんですけども。先ほど羽原委員からもお話があった、感染症のところですね。自分も興味があって特に読ませていただいたんですけども、とても詳しく分かりやすかったです。

学研については、本当に専門的で、ここまで書いているんだ、というような印象なんですけれども、多分中学生ぐらいになると、特に今ですと感染症に関しては興味を持って読まれると思うので、これぐらい突っ込んだ内容でも読み物としても面白く読めるかなと。

それから、学習の目標やキーワードというものは、どの教科書にも期待していたんですけ

れども、好みの問題もありますが、記載されている位置だとかがとても分かりやすかったので、結論としては、学研ということになりました。

○教育長 ありがとうございます。

続いて今野委員、お願いいたします。

○今野委員 学校と調査委員会とで評価をされた上で、教科用図書審議委員会として学研がAとなっているわけですので、それを踏まえて私も各教科を見て、改めて学研がよいと判断しました。

幾つか、特にいいなと思うことがありましたので、それを申し上げますと、古笛委員からもお話がありましたけれども、学習項目ごとに学習の目標が2つぐらい出ています。学習の目安をととても分かりやすい提示を端として、その上で、次にそれに応じて課題をつかむということで、具体的な問題を提示するという形式がずっと踏襲されているんですけども、これはなかなか学習を自然に進めるのにはいいなと思いました。

それから、章ごとに「探求しようよ」というのがあって、コミュニケーションの取り方であるとか、ストレスチェックやインターネット依存度のチェックなど、いろいろと興味深いテーマがたくさん入って入って、探求する際にととても有益ではないかと思いました。

それから、本文と資料、グラフ等々の配列・配分がとてもうまくまとまって、読みやすいと思いました。

さらに、小さなことですが、カウンセリングルームというコラムのようなものがあるんですけども、そこでちょうどこの頃の子どもたちにとって切実な問題で、なかなか相談しにくいものがさらりと書かれていて、とてもいいんじゃないかと思いました。

ということで、学研です。

○教育長 ありがとうございます。

次に、山下委員、お願いします。

○山下委員 私も皆さんと同じで、まず最初に学研がいいと思いました。理由は幾つかあるんですけども、一番大切なことかもしれませんが、教科書を使って何を子どもたちに伝えたいかというのが一番伝わってきた教科書が、学研でした。

例えば、表紙を見ていただくと、すごく印象的なんですけれども、女の子がこちらを見ている。これは非常にインパクトがあって、一瞬ここに目が行くんですけども、周りの風景を見ると、お年寄りがいたり子どもがいたり、例えば前の人赤ちゃんがいるというマークをつけていたりとか。一瞬そこに視点は行くんですけども、その周りにいる環境を表示し

ていたり、裏表紙も、これは教室の中で見ているというのは非常にインパクトのある表紙だなと思いました。

あと、皆さんおっしゃっていますけれども、この「探求しようよ」はすごくいいですね。実際に生活していくに当たっては、現実が多分、この教科書だけでは全然立ち行かないはず。しかし、この教科書をきっかけにして、例えばがんになったときにどうするんだとか、お友達に対してはどうだとか、投げかけがとてもうまくできて、そこからさらに学びを発展させられると思いました。

あと、巻末にあるんですけれども、学習のおわりに、ということで、皆さんこの教科書を読んだときにどうして下さいという、メッセージがすごくきれいにまとまっていて、とてもいいなと思いました。

細かいところを言いますと、下のコラムですね。どのページにも、下にちょっとした情報サプリーとか発展とか探求というのがあって、教科書の内容の合間にこういうのを見ると、ああそうなのかと豆知識も身につきますし、先ほど述べたカウンセリングルームですとか、コラムなんかもすごくきっちり書いています。目次の中に、コラムの目次もちゃんと書いてあって、あのネタはどこにあったかな、というときにすぐ分かるようになっているのもいいと思いました。

また、「課題をつかむ」のところは、非常に子どもの目線で書かれている事例が多くて、例えばストレスのところでは、学校の代表として人の前に立って話さなければならないという事例で、非常に子どもの立場で書かれています。ほかの教科書では、ストレスとは何かということを書かれているのに対して、非常に子どもの立場から書かれていると思いました。

さらには、文章と図のバランスがすごくよくて、読みながら、その図がイメージに入っていく位置にちゃんとあるので、読んでいて非常にストレスなく見ることができました。とてもいい教科書だと思います。

以上です。

○教育長 羽原委員、お願いします。

○羽原委員 僕は学研を推したいと思います。一つには、生活習慣病のところ、がんもそうですが、子どもの立場、つまり勉強して身につけるといふ感じよりは、その怖さというかね、そういうものが率直に書かれています。つまり勉強として身につけるのではなくて、自分の命や生活の中に溶け込ませて考えさせる雰囲気がある。勉強としてよりも、肌の感覚で入ってくるような表現、この辺が僕は非常によかったと思うんです。

具体的に言うと、1年生の90ページ。がんの話にしても、喫煙や節酒、子どもたちはお酒は飲まないにしても、適正体重にするとか、がんの予防として身近な設定や分かりやすさがあるし、喫煙に関していえば、喫煙することによってどんな症状が現れるかということ。また、薬物の乱用の問題についても、割に身近な感覚で書かれている。このあたりの表現の仕方が非常になじみやすい印象を受けました。

東書も、いろいろな部分で重なるところはあるし、いい教科書だと思ったんですが、ちょっと勉強っぽいというか、頭にはアピールしているけれども、肌感覚に対する身近さがちょっと遠い印象がありました。薬物依存については東書のほうがよかったと思いましたが、そのようなことで、僕は学研を推したいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

私も学研を推したいと思います。学校評価、調査委員会、審議委員会、ともに学研ということだし、古笛委員のおっしゃったように、感染症のところをやっぴり見ますよね。基礎的な知識が入ってくるような感じがしますので、学研を推したいと思います。

それでは、絞り込みを行いたいと思います。

保健体育については、皆様の御意見に従いまして、学研教育みらい社の教科用図書を採択の対象となる教科用図書として絞り込むということでよろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。

ここで、保健体育科調査委員会委員長には、御退席いただきます。ありがとうございました。

[保健体育科調査委員会委員長 退席]

○教育長 次に、国語について、教科用図書審議委員会では、どのような審議が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○池田教科用図書審議委員会委員 国語についての審議検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは光村で、10校中9校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果は、光村が総合評価でAでした。教科用図書審議委員会では、光村をA評価といたしました。その理由、意見等として、生徒の興味関心を引く題材が多く、生徒が主体的な学びを行う上で有効な工夫があること、また、思考方法について、必要に応じ

た活用を考えることができることなどが理由として挙がりました。

また、教科用図書審議委員会では、他社に関する意見として教出、文字の大きさや紙面構成のバランスのよさなどがよい点として挙げられました。

最終的に、教科用図書審議委員会として学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、QRコードの活用や見通しや振り返りのしやすさ等を含め、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった光村を教科用図書審議委員会として推薦いたします。

国語は以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御質問があれば、お願いいたします。

○古笛委員 光村に関して、10校中9校がA評価をつけているのに、1校だけC評価をつけていますが、どんな理由でC評価になったのでしょうか。

○池田教科用図書審議委員会委員 教会用図書審議委員会では、そのことについては話題に上がりませんでした。しかし、10校中9校がA評価としておりますので、多くの学校から支持はいただいていると思います。

○古笛委員 結構です。

○教育長 直接的なことは分からないということですね。

ほかに何か御質問等ありますでしょうか。

それでは、1点だけ。光村の1年生に「情報を読み取ろう」というページがあるんですけども、国語の先生がこの部分を教えるのはなかなか大変だと思いますけれども、実践的にやっていることとしては、どのようなものなのでしょうか。

○国語科調査委員会委員長 ご指摘の部分ですけれども、「情報を読み取ろう」のグラフについては、これはもうまさに学習指導要領にも記載されていることとして、いろいろな調査結果から、この読み取ったことを言葉にしようというのが実際の学校現場で取り組んでいることです。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに御質問等ございませんでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかになければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

それでは、古笛委員から、よろしいでしょうか。

○古笛委員 結論的には、光村でした。学校調査も調査委員会も教科用図書審議委員会もみんな圧倒的な結果ですけれども、先ほど何故そんな質問をさせていただいたかという、国語は光村というイメージがあまりにも強過ぎて、それに引っ張られているのではないかという思いもあって、逆にC評価をつけた先生方はどんな思いだったのかなと、そこを単純に聞いてみたかっただけなんですけれども。でも、実際に教科書を見てみて、やっぱりとても分かりやすいし、もしかしたら慣れというのものもあるのかもしれないんですけれども、そこをあえて反対する理由もありませんので、光村でよいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、今野委員、お願いいたします。

○今野委員 私も各分野でそれぞれA評価が最も多かった光村にしたいと思います。

教科用図書審議会の総評もありましたように、非常に魅力的な教材が、しかも読み応えのある作品がバランスよく配列されているような感じがいたしました。

それから、古文の取り上げ方について工夫があって、なかなか中学生で古文は読みにくいと思いますけれども、写真があったり現代語訳があったりという形で、非常に子どもたちに興味を持たせやすくしている工夫があると思いました。

それから、文中でも巻末でもそうですけれども、いろいろところで漢字や文法、それから読書について力点が置かれていて、とてもいいと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私も結論から言いますと、光村図書がいいと思います。

理由は幾つかありますけれども、まず、開いてすぐのところに「思考の地図」というのがあって、情報のまとめ方という意味では、非常にまとまっていると思います。特にこれからの時代に必要なスキルの一つの習得になるのではないかと考えています。ただ、これを先ほど教育長もおっしゃっていましたが、本当に国語の教師が教えられるのかというところは、ちょっとまた別問題としても、こういうきっかけがあるのはとてもいいと思いました。

また、これをずっと見ていくと、例えば「読書を楽しむ」とか、いろいろところで、国語をより楽しんでもらうためのコラムも随分しっかりしていて、この本を読んでみたいな、とか、ここの部分を深めてみたいな、というところへの持っていく方がとてもうまいと思

ました。

また、もう一点、私も仕事柄気になっていたのが、本を読む、声に出して読むというところ です。

光村の1年生、16ページに書かれています。声をどうやって相手に届けるのかということを書いています。読むという言葉ですけれども、日本語には語るということもあるし、しゃべるとということもあるし、せりふという言葉もある。いろいろな声の出し方があるんですけども、その中でも話す、相手に伝えるというところでまとめられていると思うんですけども、ほかの教科書でここまできっちり何が大切なのかを書いてくれているものはなかったと思います。

あと、古典のところについては、多分、これは賛否両論あると思いますが、私は横書きだと逆に分からなくなってしまうんですけども、今の人たちにとっては、こういう形で工夫していただけるのは、非常にありがたいと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

続いて、羽原委員、お願いします。

○羽原委員 僕も光村です。学校現場も調査委員会も、ほぼ統一的な意向が示されているので、そういう面からもいいと思いますし、具体的に申しますと、光村の場合は目次でも、学びを開くとか新しい視点とか情報社会を生きるとか、大まかな狙いを示して、なおかつ、中では「思考の地図」とか学びを開くというようなところがある。全体として、国語という教科によって、より広い、知的な思考を広げようとする、そのような編集の姿勢が非常にいいと思っております。

ただ、生徒の思考や好み、あるいはそれぞれのレベルに対して、先生の力量がどこまで、どう届くか。このことが、いい教科書、レベルの高い教科書ほど、先生もそれをこなして子どもたちに伝えるという難しさがついてくるという印象がありました。

それから、これは各教科書について1つだけ感じたことを申しますと、国語の教科書が随分と実践的なもの、かつ技術的なもの、そちらの方へちょっと傾き過ぎているなという印象があります。例えばこの光村の264ページの、文学的な文章を読むために。これは非常によくまとまっていて、参考になると思うんです。

ただし、本を読むというのは、こういうノウハウ、技術とかポイントを学ぶことではなくて、本自体から何を吸収できるかということだと思っただけですね。ただ、教科書の中には本の

紹介も色刷りで出ていますが、この紹介されている本も興味深く「役に立つ」、そういう視点のものが非常に多い。

また、いわゆる近現代の文学についての触れ方が非常に乏しい。せめて、その本の紹介のところにもうちよっと、先ほどの三島由紀夫の話ではないが、どこまでを取り上げればいいのか。また、森鷗外とか夏目漱石は大分難しい言葉遣いになっているけれども、もうちょっと本の概略、梗概のような点、あるいはこういう内容の本ですよというようなものが、例えば1年に10冊、3年間で30冊でもいいから、そういうことがあるといいと思う。つまり、いまだに夏目漱石に目が向けられるということは、あの時代の人間性みたいなものが、あるいは人間の悩みみたいなものが、実は今も続いている問題であり、そこに気づくような導入の装置が欲しい。

例えばチボ一家の人々なんかにしても、最初はある大量なものを読もうという気がなかなか起きないが、読んでみると面白いし、刺激を受ける。ああ、若者っていうのはこういう気持ちになるんだとか、気づきがあるんですね。

だから、ぜひ教科書には、本の紹介は短くてもいいから、なるべく取り上げることが、子どもたちの立場にとってはいいんじゃないかと思うんです。

大人たちに向けてではなく、これから伸びていく子どもたち、今悩んでいる、思春期を迎えている子どもたちが何に刺激され、何に迷い、それを解こうと本を読むのか、そういうガイダンス的なものが、この光村にしてもあまり取り上げていない。これは国語の教育上、あまり芳しくないと思うんですね。全体的にどの教科書もテクニカルな向上に走って、促成栽培的な人間をつくるかの印象がある。

だから、あまり技術面に走ったり、実利あるいは目先の進学とか就職とかにこだわるのではなく、もうちょっと奥行きのあるような教科書にしていくということに関しては、ぜひ小説類を尊重していただければと思いますね。これは、僕の要望であります。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。では星野委員、お願いいたします。

○**星野委員** 私も調査委員会、教科用図書審議委員会で高評価の光村にいたします。

皆さんおっしゃるとおり、大変分かりやすいですし、設問等を見ていると、解くだけで何か文の解釈が自然に出てくるような流れができていまして、とても分かりやすいと思いました。

また、個人的なものかもしれませんが、文字の濃さや行間を見ましても、読んでいて目が

疲れにくい感じがありましたので、光村にいたしました。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。私も学校評価、調査委員会、それから教科用図書審議委員会でも評価の高い光村にしたいと思います。「思考の地図」等々、とてもよくできていると思います。それをきちんと教えられることを、大いに期待したいと思います。私も光村にしたいと思います。

それでは、ほかに特になければ、協議内容の確認をしたいと思います。

国語については、本日審議した内容で、皆様の総意として、光村図書発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。

次に、書写についてです。教科用図書審議委員会でどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○**池田教科用図書審議委員会委員** 書写についての審議検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは光村で、10校中7校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、光村が総合評価でA評価でした。教科用図書審議委員会では、光村をA評価といたしました。

その理由、意見等として、内容、構成ともにバランスが取れており、授業計画等も立てやすい、そして書写ブックの活用が有効であるといった意見が挙がりました。

また、教科用図書審議委員会では、他社に関する意見として、東書にも同様の形の活用ブック等がございますけれども、こちらの有効性についても意見が挙げられました。

最終的に、教科用図書審議委員会として学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、文字の使い分け、そして日常に生かす題材等が多いことから、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった光村を教科用図書審議委員会としては推薦いたします。

書写は以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。

それでは、御意見、御質問があれば、お願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

○山下委員 1点、気になったのが、今、文字を書くときは横書きが大変多いかと思うんですけども、横書きの指導というのは、実際には行うことがあるのでしょうか。

○国語科調査委員会委員長 まず、国語指導の中で横書きをするというのは、例えば何か表にしたりとかということ以外では、ほぼありません。板書も、道徳と並んでほぼ唯一と言ってよい縦書きで、子どもたちも縦書きで写している教科です。

書写に関しては、基本的には縦書きで行いますが、場合によっては、手紙の書き方で、今は横書きの手紙を書く方も非常に多く、便箋もそういったものが売っていますので、実用的な練習をするときに使ったりすることはあります。

以上です。

○山下委員 ありがとうございます。

○教育長 ほかに何か御質問等ありますでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御質問等なければ、各委員から御意見をいただきたいと思います。

では、今野委員、お願いします。

○今野委員 学校の評価、調査委員会の評価が高く、それに基づいた教科用図書審議委員会の審議でも光村ということでしたので、私も光村を推したいと思います。

4つの教科書を比較しながら全部見ましたけれども、評価にもありましたけれども、それぞれ内容的にはよくできているというお話もありましたし、そのとおりだと思いましたが、特に光村の場合は、行書についてのまとまった理解、練習ができて、行書にかなりなじめると思いました。

少し早く長い文章を書くときには、手書きの場合には行書的なもので書くことが多いので、行書に慣れておくというのはいいことだろうと思います。最近では、パソコンで文章を書くことが多くなりましたけれども、やはり基本は手で書くということで、行書についても慣れていくのがいいと思っております。

特に、そういう意味ではまとまった記述があり、また行書の漢字表まで出ておりましたので、とてもいいと思いました。

それから、各教科書共通でしたけれども、文書の書き方がいろいろな形で載っていて、実用的でもあると思いました。手紙の書き方、年賀状の書き方、入学願書の書き方、伝票の書き方、ポスターの描き方、さまざまなものが例示に挙がりながら出てくるというのも、とてもいいんじゃないかと思えます。総合的に見て、光村がいいという結論でございます。

○教育長 では、山下委員、お願いいたします。

○山下委員 書写って何だろうと、教科書を見ながら思いました。もう何でもパソコンでできて、文字を書くということがどんどん減っていく中で、この書写というものをどうやって教えていくんだろうという視点で、少し考えさせていただきました。

調査報告書の中にありましたように、光村を基軸に置いて、ほかの教科書を見比べてみました。対極にあると思ったのは、教育出版の教科書です。

何点か気になる箇所がありました。まず、光村でいうと、例えばデザインと文字等でフォント等は扱っています。明らかにこの書道という立場ではなくても、デザインの一環として扱っているということと、後の方にいろいろな、どういうふうの実用的に使うかということが書かれています。

それを見た後に、今度、教育出版を見て、まず最初の4・5ページからですけれども、書道とは何なのかと。この書と人間の関わりというところをしっかりと書いてくれていて、どういう目的があるのか。また、学習の進め方ですけれども、お互いに評価しようとか、こういうふうに学んだなということも書かれていたので、書道をどう生活に関連づけていくのかということ非常にしっかりと書いています。

その後、13ページを見ていただくと、ノートの書き方、確かにこれは子どもたちが実際にものを書くに当たって、一番書く部分です。それをどういうふうにまとめていくかということも書いています。中学生になってからのノート指導とはどうなのかなと思ったんですけれども、こういうふう生きてくるんだなと、細かな気遣いを感じました。

また、飛びまして、例えば40ページの行書で書いてみようのところにも、写真がすごくきれいに載っていたり、83ページの下も、まずどういうペンで書くと、どんな字になるかななどが載っています。

その隣、例えば84ページの掲示物は、サインペンかフェルトペンで書いていて、ボールペンでは駄目ですよとか、106ページにも、ここは鉛筆では駄目ですよ。非常に現実に即しているなと思っています。

106ページの原稿用紙の書き方についても、原稿用紙に実際にどう校正したかが書かれていて、特に原稿用紙の校正は、子どもたちは恐らくしたことはないと思うので、そういう子どもたちに対して、すごく分かりやすく書いていると思いました。

また、細かいところですが、伝票の書き方についても、例えば東書ですと、117ページでは「御依頼主」と「様」だけを消しているんですけれども、ここはもう「お」をあら

ゆるところにつけて、気をつけるべき点の注意が一番多かったり。105ページでは英文で書いたりとか、また「欠席させていただきます」「よろしく願いたします」というのは、非常に実務的であると思いました。

非常に悩んだんですけれども、これから文字を学ぶという人に対しては、教育出版のほうがいいと、評価を覆すようで申し訳ないですけれども、並べて見たときに感じました。

以上です。

○教育長 続いて、羽原委員、願いたします。

○羽原委員 教科書としての部分は、そう違わないという感じですが、どこが違うのかというと、やはりおまけの部分というか、コラムとか、そういうところの工夫なりが、光村は割にいいんじゃないかなと思いますね。僕は光村です。

例えば、最後の常用漢字のところを見ていくと、光村は活字でなく、楷書、行書で書いている。それから教出の場合は、漢字の一覧表はあるが、小さくて活字の細かい部分が見えにくい。年のせいかもしれませんが、やはり光村のほうがいいですね。

それから、光村の1年生の98ページのユニバーサルデザイン、これは非常に分かりやすい。それから、デザインと文字のところも、明朝、ゴシックが分かりやすい。教出でももちろん触れてはいますが、ゴシックと明朝の紹介にとどまる。文字の変遷については、教出も光村も、ほかでも触れていますが、これは教出のほうが出典の写真、これを使っているのいいと思います。光村のほうは、文字の歴史としているけれども、絵であって、ちょっと寂しい感があります。

あるいは新聞づくりについても、教出と光村、それぞれの工夫があると思います。教科書としては大きな差はないけれども、工夫の面においては光村と思ひまして、光村を推します。

それから、ちょっと離れますが、教科書づくりのときに、校正のスタイルというものを扱ってほしいと思います。つまり、パソコンの時代になって、打ち間違いとかがあり、こうした校正の仕方やルールといったことも教科書にあってもいい時代じゃないかなという印象を持っています、御検討いただければ、うれしいと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

星野委員、願いたします。

○星野委員 私は、学校評価、調査委員会、教科用図書審議委員会ともに高評価の光村を推薦したいと思います。

とにかく見やすいのが第一なのと、パソコン時代のいま、フォントは美術で扱うものかもしれないですけども、やっぱりフォントというものが載っているのは、やはり国語をやる意味でも必要じゃないかと思いました。できれば、もうちょっといろいろなフォントを載せてもらったほうがいいとすら思いました。

また、全教科書に共通して気になったのは、往復はがきの返事的时候に消す文字ですけども、中学生ぐらいの往復はがきだと、「御氏名」とか「お名前」でいいかもしれないですけども、我々ぐらいになると、「御芳名」というのが来るので、できれば、「芳」まで消すところも教えてあげるといいと思いました。結論としては、光村を推薦いたします。

○教育長 ありがとうございます。

古笛委員、お願いします。

○古笛委員 私も結論的には光村です。でも、本当にどの教科書も役に立つと思いました。自分でも何か1冊手元に置いておきたいくらいでした。あとは好みの問題もあるんですけども、やっぱりコラムは光村が面白かったです。それから、教育出版でとても面白かったのは、どの教科書にも身の周りの文字ということが紹介されているんですけども、教出では、全国のお城を地図と一緒に漏れなく紹介しているので、これはとても面白いと思いました。

それに対して、光村も全国文字マップということで、日本地図と一緒にいろいろな文字を紹介していて、地元愛ではないんですけども、自分の住んでいるところに関連するものというのは、興味が持てるなと思いました。

総合的には、光村ということになりました。

○教育長 ありがとうございます。

私も、結論的には光村です。学校評価、調査委員会、教科用図書審議会の評価も高かったですし、コラムも面白かった。あと、行書で書く短歌とか俳句のところがなかなか良かった。ついでにこの句も覚えられるという、一粒で二度おいしい感じもしまして、光村にしたいと思います。

それでは、お諮りしたいと思います。

他に御意見等がなければ、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行いたいと思います。

書写については、本日の審議から、教育出版社発行の教科用図書と光村図書発行の教科用図書が優れているとの御意見があったと思います。この二社を採択の対象となる教科用図書の候補とすることよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 では、7月27日に、改めて一種に絞り込みたいと思いますので、よろしくお願いたします。

ここで、国語科調査委員会委員長には御退席いただきます。ありがとうございました。

[国語科調査委員会委員長 退席]

○教育長 次に、技術・家庭（技術分野）について、教科用図書審議委員会では、どのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○池田教科用図書審議委員会委員 技術・家庭（技術分野）について、審議検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは教育図書で、10校中4校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、開隆堂が総合評価でA評価でございました。

教科用図書審議委員会では、開隆堂をA評価といたしました。その理由、意見等として、問題解決、課題解決を意識した内容構成となっていること、また、実習例など工夫された題材が多いことなどが意見として挙がりました。

また、教科用図書審議委員会では、他社に関する意見として、東書は技術に関わる様々な人物の紹介や写真、イラストなどの美しさなどがよい点として挙げられたとともに、教育図書においては、紙面構成や、また主体的な学びを深める工夫、そして別冊の工具の使い方など、必要な情報が端的に記載されているということが、よい点として挙げられました。

最終的に、教科用図書審議委員会として学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、技術の役割を理解し、実生活に即した事例が多いことから、学校評価でB評価であり、調査委員会調査でA評価であった開隆堂を推薦いたします。

技術・家庭（技術分野）は以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御質問等あれば、お願いいたします。

いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 御質問等が特にないようであれば、それぞれ、ふさわしいと思われる教科用図書について、御発言をいただきたいと思います。

今度は山下委員からお願いいたします。

○山下委員 まず、一通り目を通しました。技術自体は、やっぱりものを作るというところを、情報を仕入れる、知識を仕入れるというのもそうなんですけれども、実際に作れるかと、これを見て作りたいと思うか、そして作れるのかということ念頭に置いてみました。

木工のところは何となく感覚的に分かるんですけども、特に最近重要視されている情報分野のところを中心に見ていきました。まず特徴的なのが、技術ハンドブックがあります。これはあつたら便利だなという程度ですけれども、教育図書の後ろにある設計計画表、これはなかなか本気だなと思いました。ちゃんと作っているなと思いました。

また、プログラミングのところでは、中身も少し見てみました。開隆堂と教育図書の両方を見ると、どちらもスクラッチを使って作っています。特徴的なのが232ページから始まるPTAバザーの案内マップですけれども、これはスクラッチでクライアントサーバー型システムをつくり上げていくという、なかなか高度なことをやっていて、本当にこれができたらすごいと思うんですけども、実際現場でこれをやるとなると、相当しんどいと思いました。しかもIPアドレスを取ったり、なかなかプロのシステムエンジニアがやるようなことを書いていたりします。

また、少し戻るんですけども、例えば134ページの「つくってみよう」です。電気工作なんですけれども、これは実際にUSBポートに差し込んで光るLEDライトを作るということで非常に実用的なんですよね。例えばUSBコネクターの接続の向きを間違えないようにとか。私は大好きなので、なるほどと思ったんですが、現実に即して書かれています。これがあれば、多分作れるだろうなと思います。

開隆堂は、要点が非常にまとまっています。この部分はこうやって作るんですよ、とか、それに対してコーディングはこうするんですよと、書いているので、全体的にはこちらのほうが載っている種類が多いんですね。深く作るのであれば教育図書で、実際にいろいろな知識を仕入れるという意味では、開隆堂のほうが優れていると思いました。

なので、最初に質問をさせていただいた、この教科書のほかに何か進行する教材があった上で、その上で教科書を使うのであれば、それは開隆堂のほうが使いやすいんだろうと思います。ただ、教科書だけで本気で作るんだったら、教育図書ぐらい細かく書いてないと、現場の先生が多分難しいだろうと思いました。

ただ、開隆堂の教科用図書で恐らく技術習得としては十分だし、教育現場としては、こちらのほうが使いやすいのかなと思いました。

ですので、私は開隆堂を推したいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

続いて羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 僕も結論から言うと、開隆堂です。

僕は牛込一中にいたけれども、あの頃は職業という授業があって、5分の2が就職組だった時代です。クラス別に2つが就職組、片方が夜間、片方は中学卒業で就職、あとの3クラスが進学というような、今で言えばあり得ないような明確な仕分けがあって、進学組は職業はそれほど重視しなくてもいいと、先生が言うぐらいの授業だった。だから、家庭はある程度イメージが湧くけれども、技術という教科のイメージについては、何をどういうふうにするのかなという印象だったけれども、改めて目次を見て、材料加工技術、生物育成技術、エネルギー変換の技術、情報技術というような、大きく4パターンに分けながら教えているんだと。僕にはまず、それ自体がなるほどという、そういうものなのかという、ごく基本的な関心を持ちました。

この技術という教科の全体像を子どもたちに教える際には、まず、この技術というのはこういう教科であって、これが社会生活の中でこういうふうに関係するんだというようなこと、つまり、プログラミングだけが重要課題だというイメージではなくて、教科全体が身につくような関心の持ち方、これが1年生の導入のときにしっかり指導できていたほうがいいと思いました。

その上で、僕が開隆堂がいいと思ったのは、そういう技術の役割というものを、過去から現代にかけて、初歩的な技術から始まって、人間社会の発展が技術によってもたらされてきているというその視点があった上で、その中の一環としてプログラミングという技術も入ってくる。ごく先端的な技術だけれども、歴史の位置づけの中で取り組ませていく、その教育指針みたいなものは非常に大事であると思っていて、この点、開隆堂はいい視点を示しているという印象がありました。

プログラミングは狭い意味ではなくて、コンピュータやパソコンとの触れ合いだという広い見方のつくり方が開隆堂にはあろうかなと思ひまして、それも単にプログラムがつけられるという、そういう狭い意味のプログラミングの授業だけではないんだということ、これをしっかり教えてほしい。

つまり、向いている子はどんどん伸びるし、興味も自分で開発できる。しかし、嫌だなと苦手と思う子どもも少なからずいるはずなので、向かない、嫌がる子どもをどういうふうに関心を持っていくかというのは、その先生の教え方の問題に関わってくると思うんですね。そ

ういう点に若干の注文をつけてよければ、開隆堂の教科書はよくできていると思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

星野委員、お願いします。

○星野委員 結論から言いますと、私も開隆堂がいいと思いました。

各教科書、一長一短あるんですけども、読んでいて指示が分かりやすいということ、また、ねじの種類とか木の種類とか、実際に僕も木を切っているいろいろ作ったり、車や自転車の修理をしたりするんですけども、そのときに必要な知識が結構書いてあるんですよね。そういう点でいうと分かりやすいし、最小限と言ってしまうと言い過ぎかもしれないですけども、そんなに深入りしなくても技術が楽しめる内容があって、なおかつ実践的にも使える情報が多いかなと思いました。

プログラミングの例も、一般的に興味を示してやってみようかなという、簡単と言えば簡単なんですけれども、そんな内容が多いので、技術という教科に入っていくやすいという点では、僕は開隆堂でいいかなと思いました。

山下委員がおっしゃるように、確かに深入りするのであれば、別の教科書のほうがいいかなと思いましたけれども、さわりとしてはいいかなと思いました。

また、少し気になったのが、東書の156ページに、新幹線に含まれている技術が一通り載ってまして、日本の技術の結晶みたいなものがどーんと書いてあって、これは一度目を通しておくと、新幹線そのものに興味を示せると思いました。

以上です。

○教育長 では、古笛委員、お願いします。

○古笛委員 私も結論としては、開隆堂です。

私が中学のときには、男子が技術で、女子が家庭ということで、全く技術は勉強しなかったんですけども、いろいろ読ませていただいて、開隆堂が一番読みやすかったです。分かりやすいということと、教育図書はちょっと重い、厚いというのがありました。東京書籍も未来をつくるテクノロジーということで、未来志向ということが全体的には表れているんですけども、やっぱり一番分かりやすかった開隆堂と、それから、先ほどの続きではないんですけども、日本各地の伝統的な工芸マップというものもあって、これも面白かったので、開隆堂がいいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

今野委員、お願いします。

○**今野委員** 調査委員会、それから学校評価はそれほど高くはなかったわけですが、全体を通して教科用図書審議委員会でA評価をつけた開隆堂が最終的にはいいと思いました。

全体的にいろいろお話が出ていまして、ほかの委員からあったとおりですが、紙面全体が非常に構成がよくて、読みやすい。様々な図等が入っているんですが、すごく分かりやすいし、内容も、例えば自分がよく分かるところで、昔からの材料加工の領域のところも見ましたけれども、ほかに比べても知識、技術がしっかり整理された記述になっていて分かりやすい。形も内容も分かりやすくしてしっかりしているという印象を持ちました。

特に、今回どういうふうになっているか関心がありましたのは、やはり情報の分野です。

教育図書と比べながら読んでみたんですが、記述が体系的であり、ある程度詳しい記述で、全体的に理解がしやすい、知識が入るという感じで受け止めました。

最初にコンピュータの機能であるとか装置、仕組み、それからデジタル情報のこと、情報セキュリティなど様々なことは、ある程度の内容で記述されていますし、その後にプログラミングということで、多くの事例つきで考え方を整理する方式で出てきます。ということで、トータルとして、情報というテーマについて一定のレベルで理解するには、とてもいいという感じでした。

一方、教育図書もすごく魅力的で、4つの領域共通ですが、つくって学ぼう、じっくり学ぼう、学びを深めようということで、問題解決型で意欲的な構成になっているわけですが、情報のところでも情報技術を身につけよう、それから実際に追いかけてゲーム、数当てゲームをつくってみよう、その後で構想具体化、設計をまとめる、設計を図で表す、という流れになっています。実践を通じながら、情報全体の理解を進めるという、はっきりとした手法が組み込まれているのかなと思いました。

最後に、2足歩行ロボットをつくってみようということで、実際にいろいろなものを使いながら、2足歩行ロボットをつくるというところまでいきますので、本当に実践的な教科書で、これはこれで魅力的だなと、一方では思ったところがございます。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。

私も結論から言うと、開隆堂です。今後、小学校から中学校へと続いてくることになる情報分野のところも、そんなに詳しくなくても読み進められるという感じで、これにうまく学校現場で、それぞれの子どもの希望に応じたところで、知識等々を付加していただければあ

りがたいと思います。

ということで、私も開隆堂とさせていただきます。

それでは、ほかに御意見がなければ、教科用図書協議内容の確認を行いたいと思います。

技術・家庭の技術分野については、本日審議した中では、皆さんの総意として、開隆堂出版発行の教科用図書を採択の対象とする教科用図書とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○**教育長** ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

次に、技術・家庭（家庭分野）について、教科用図書審議委員会では、どのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○**池田教科用図書審議委員会委員** 技術・家庭（家庭分野）についての審議検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは教育図書、東書、ともに10校中4校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果は、教育図書が総合評価でA評価でございました。

教科用図書審議委員会では、教育図書をA評価といたしました。その理由、意見等として、生徒の実態に即した選択肢や時代に即した題材が多いこと、調理の手順が明確で具体的にイメージを浮かべながら指導を行うことができることなどが挙げられました。

また、教科用図書審議委員会では、他社に関する意見として、東書について、目標から振り返りまで内容が一貫していることなどがよい点として挙げられました。

最終的に教科用図書審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら、総合的に判断した結果、体験的な題材、安全衛生面に関する題材の多さが有効であり、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった教育図書を教科用図書審議委員会としては推薦いたします。

技術・家庭（家庭分野）は以上でございます。

○**教育長** ありがとうございます。説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

いかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○**教育長** 御質問等がなければ、皆様方の御意見をお伺いしたいと思います。

それでは、羽原委員から、お願いいたします。

○羽原委員 家庭は比較的身近なところで感じられるので、全体にいいなと思いました。好きな教科書で勉強してほしいと言ってもいいぐらいに、どれも練れているし、いいなと。

しかし、どうしても1つを選ぶとするならば、教育図書かなと。それぞれ、内容の配置は似てはいるけれども、教育図書は分かりやすいし、ステップアップしていけそうな雰囲気があって、写真も非常に明るい。楽しげなつくりだし、料理はおいしそうだしという、基本的な魅力はやや教育図書が勝っているかなと思いました。率直に言うと、そんな印象でした。

○教育長 ありがとうございます。教育図書ということですね。

では、星野委員、お願いいたします。

○星野委員 結論としましては、教育図書を選ばせていただきました。

ほかの教科書も、確かに羽原委員がおっしゃるように、そんなに悪いところは見つからないんですけども、4、5ページに載っている、問題を発見する、課題を設定する、計画実践するという、これが章ごとの後ろにあるんですけども、それに当てはめて読んでいくと、自然と何が言いたいのが見えてきて、とても分かりやすかったです。

あとは、乳児・幼児の発達が載っているのに驚いたんですけども、考えたら、今、イクメンも大勢いる時代ですので、あっても不思議はないと思いました。その内容に関しても、医学的に見てもそんなに問題はないと思いました。

少し気になったのが、教育図書は家族のところ、子どもの話はあるんですけども、高齢者の話があまりない。今、この時代ですので、本当は高齢者の話があったほうがいいかなとは思いました。また、細かいですけども、食中毒のところ、教育図書には、何でも熱を加えれば大丈夫ですよ、と読めるような記載があるんですけども、実際にはウェルシュ菌のように加熱しても駄目な菌もあります。確か、東書にはちゃんと書いてあったんですけども、ちょっとそのあたり、医学的に言うと気になったというところがありますけれども、総合的に見て、教育図書がいいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も結論としては、教育図書です。

本当に全ての教科書がとても面白く、身近に読ませていただきました。特に消費者教育のところも、それぞれの教科書が、ちゃんと法律まで紹介しているんだなということで、分かりやすかったんですけども、強いて言うならば、一番身近に感じやすく、記載もすっきりしているので、教育図書でいいのではないかなと思いました。最終的には、学校現場の意見

を尊重する形にさせていただきました。

○教育長 ありがとうございます。

では、今野委員、お願いいたします。

○今野委員 調査委員会、それから学校評価、その上での教科用図書審議委員会の判断で、教育図書がA評価ということで出てきました。私も、それを踏まえながら、教科書を比較しながら見ましたけれども、結果的に教育図書を推したいと思います。

全体的に写真、イラスト、文章の配置がとてもよくて見やすいです。そのために、料理で特に出ているんですけども、作業の手順がはっきりと、やりやすくなっているんじゃないかと思いました。

それから、各教材の最初のところに、目当てが出てくるわけですけども、面白い、漫画のような形で子どもたちの興味を引くようなイラストが入っていて、それを補完しているんですけども、これで学習に入りやすい点もあると思いました。

以上です。

○教育長 では、山下委員、お願いいたします。

○山下委員 結論から言いますと、私も教育図書がいいと思います。

理由は4つあるんですけども、まず、料理のところですが、写真がとてもいいと思います。食べ物の背景を白にしているので、食べ物が非常に引き立って、食べてみようかなという思いになります。

それをずっと追っていくと、手順がずっと縦に並んでいて分かりやすいのと、例えば135ページの右側ですね、一番最後にどうしてこうなったのかという失敗事例が載っているのが非常にいいですね。ああ、よくやると思いながら、見ていました。何で身が崩れてしまったのかと。そういうことがあるというのも、中学生が親しみを持って取り組めると思いました。

また、220ページ、住まいの空間の使い方というのが、いろいろと考えさせます。これから結婚したり、家族が増えていく、そういう子どもたちが今後のことをいろいろ考えるに当たり、非常に主体的に考える仕組みができていると思いました。いろいろな人の意見を聞いて、誰をどこの部屋にするかという点などですね。

221ページには、これは誰の家でしょうということで、Q1、7人プラス1匹の大家族が住んでいるとか、3人プラスロボットの数、こんな広い家に住んでいるんだと思いながら見ていたんですけども、こういう面白いネタもあって、家庭ということを考える、いいきっかけになると思いました。

消費のところも見てみました。消費者トラブルなどについてもしっかり書いてあったんですけれども、フェアトレードやエシカル消費について非常に重点的に書かれていたのが印象的でした。

項目として、こういうことを書いていることもそうなんですけれども、巻末290ページの下段は、お兄さんが実際にエシカルな生活をしたらこうなるであるとか、その上の段も、284ページから、先ほども委員がおっしゃっていましたが、非常に面白くて、ああ、習ったことがこういうふうにとままっているんだというのが、非常に分かりやすく良かったです。

あと、最後の食べ物のシールは、これは晩御飯を考えるときにとってもいいなと、今日、何作ろうかなという思いになりました。

あと、和服が載っているんですね。1点、細かいところですけども、浴衣の着つけまでは載っているんですけども、帯の締め方が載っていないんです。1社だけ帯の締め方が載っていましたが、ただ、締め方が多分違って、女性用の結び方になっていて、男性は貝の口はあの結び方ではないのではないかと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

私も教育図書で、調査委員会等と同様の意見にしたいと思います。

特に消費者のところ、山下委員からフェアトレードのお話がありましたけれども、243ページのところ、考えてみよう、買物の意思決定のプロセスとあるんです。そこにTシャツが載っていますけれども、外国製、日本製、フェアトレードとあって、フェアトレードが高いんですよ。ここがすごくいいなと思うんですよ。つまり、フェアトレードというのは安く買い叩くことではないんだということです。フェアなトレードを進めるということで、安い高いだけではなくて、そこには買物というものを考えるということがあるんですよ。この値段が一番高いというのは、いいと思いました。

それでは、ほかに御意見等なければ、協議内容の確認を行いたいと思います。

技術・家庭（家庭分野）については、本日審議した中で、皆様の総意として、教育図書発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

それでは、以上で本日の種目ごとの審議と、教科用図書の絞り込みを終了いたします。本

日の協議は終了いたしますが、事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

◎ 閉 会

○教育長 ありがとうございます。

それでは、本日の教育委員会を閉会といたします。

午後 4時00分閉会